



きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

安全・安心をお届けします。

平成 28 年 3 月 10 日

グリーンプロジェクト情報 第2号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

技、其の二 浸種初日の水温と積算温度が重要！！

品種名	積算温度	浸種日数（目安）
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 コシヒカリ・ふくひびき	120℃以上	水温10℃ 12日間以上

- ①浸種開始初日の低水温は発芽率が低下します。
(お湯を加えるなどし、水温10℃~15℃を確保してから行う)
 - ②浸種桶には、温度計を設置し水温を測って、確実に積算温度を確保する。
 - ③浸種時の水量は、種子量の2倍以上とする。(浴比 1:2)
 - ④薬剤消毒種子の場合、薬剤効果安定の為、浸け始めから3日間は水を替えない。
その後は、3日おきに水の交換を行う。
 - ⑤水交換の時には、種籾の位置・上下交換も行う。
 - ⑥温湯消毒した種籾は、必ず別の容器を準備し区別して浸種する。
- ※浸種時に活水(100倍液)を使用すると発芽状況が良好となります。
また、催芽時にも活水(100倍液)を使用することで更に発芽が促進されます。
※水交換等については、裏面の「特別栽培米に取り組む方々へ」の内容を厳守願います。

技、其の三 育苗培土・育苗マットの使用は適切に！

- ①購入培土を使用する場合
透水性・通気性が大きすぎる場合は、下表の資材を混合するなどして保水性・保肥力を改善する。混合後は必ずpHを測定してから使用する。

推奨資材

資材名	容量	pH	参考価格	箱当たり価格
ピートモス(カナダ)	107㍓	4.0	3,348円	31.3円
水稻育苗用V床土	45㍓	4.5	2,300円	51.1円

- ②育苗マットを使用する場合
1. マットには裏表があるので、育苗箱に入れる時は十分確かめる。
2. 播種時(前)にはマットにたっぷり灌水する。(箱当たり約2㍓が目安)
3. 覆土は、(覆土用、肥料入等) やや多めに使用し、根上がりを防止する。
4. マットは保水力が強いので、過湿にならないように育苗期間中の灌水はひかえめにする。(灌水は、育苗箱を傾けて、水がしみ出るときには、灌水しない)
5. カビ対策として、播種後14日以内にダコレート水和剤500倍液を箱当たり500cc灌注する。(特別栽培米には使用出来ません)

- ③水田の土を使用する場合
表土を削り、作土部を床土として使用する。(深すぎて、耕盤まで掘り取らない様に要注意) 過度に乾燥させてしまうと、**砕土のとき土が細かくなりすぎ**、酸素欠乏など障害を引き起こす事があるので、乾燥程度には特に留意が必要。また使用前にpHを必ず確認する。
(裏面へ続く)

春作業開始まであとわずか！！ 健苗づくりに向け、準備を万端に！

28年産米の春作業スタートまであとわずかとなりました。作業の手順や使用する機器や容器を事前にしっかり確認し、確実な作業で健苗づくりに努めましょう。

技、其の一 種子消毒は確実にに行ないましょう！

<ばか苗病の対策>

- 毎年発生が見られる場合、「イチバン」(500~1,000倍液で瞬時浸漬または散布)で、種子消毒、浸種、催芽に使用する機器並びに容器を消毒する。
- 育苗培土や苗床に籾殻を使用しない。また、被害ワラや籾殻を育苗施設周辺に放置しないこと。(腐熟が不十分な堆肥を含む)
- 浸種は日陰で行い、水温が高くなり過ぎないように管理する。(15℃未満)
- 温湯消毒の場合、浸種期間中2~3日に1度は水交換を行う。

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度	処理法
低濃度長時間 処理法	スポンタック乳剤	1000倍(10cc/10㍓)	24時間浸漬、その後浸種。
	テクリートCフロアブル ※苗立枯細菌病にも有効	200倍(50cc/10㍓)	24時間浸漬後、2~3日陰干し、その後浸漬。

注意事項

- ①種子消毒時の水温は、10℃以上~15℃未満であることを確認する。
- ②浸漬処理の場合、種子籾と処理薬液の容量比は1:2以上とする。
- ③浸漬する場合には、催芽袋をよく揺すり中までしっかり薬液に浸るようにする。
- ④使用後の廃液は周辺環境に影響をおよぼさないよう適切に処理する。

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度	処理法
湿粉衣法	ベンレート水和剤 20	乾燥籾重の0.5%	2~3日間ひろげて陰干し後、浸種する。

床土改良のポイント

粘土系土壌の場合……透水性改善のため、くん炭（完全に炭化したもの）を20%程度混合する。
砂壤土系土壌の場合…保水性改善のためピートモス等を混合する。

技、其の四 床土消毒、肥料混和は播種七日前から！

①育苗基肥（1箱床土量 約3.2畝）

施肥例①	サイコー11号:12g/箱	追肥は2回程度必要
施肥例②	サイコー11号:8g/箱 + エコロンG 413M100:50g/箱	追肥は不要
施肥例③	育苗一発稚苗用 : 60g/箱	追肥は不要
施肥例④	育苗専用マット (こめパワーマット・エスマット)	追肥は2回程度必要

②床土消毒（苗立枯病の予防・ムレ苗予防）

床土に、上記の肥料を混合する時に下記の薬剤を同時混和する。

タチガレン粉剤（3～6g/箱）またはタチガレエースM粉剤（6～8g/箱）

☆苗立枯細菌病対策としては、カスミン粒剤（床土混和に30g/箱または覆土に15g/箱）

◆注意事項

- 1) 特別栽培米は、決められた薬剤しか使用できないため、必ず確認してから使用して下さい。※タチガレエースM粉剤は使用出来ません。
- 2) 「つや姫」は、カスミン粒剤のみの使用となります。特にマット育苗の方は、覆土混和での使用をお勧めします。（苗立枯細菌病対策）

技、其の五 正確な温度でハト胸催芽を！

☆上手な催芽は健苗づくりの基本

- ①催芽温度は30～32℃とし、催芽の程度はハト胸状態とする。
- ②品種によって、催芽完了までに要する時間が異なるので、**随時、芽の状況を確認し、90%以上の揃った芽切れで仕上げるようにする。**
- ③ハトムネ催芽機を使用しての「催芽」は、機械を過信せず温度計を設置し確認する。



技、其の六 適正な播種量で健康な苗作り！

☆播種量の基準

	葉齢	育苗日数	乾籾重	催芽籾重	催芽籾量
稚苗	2.5	25	150～170g	180～200g	1.6～1.8合
中苗	3.5	30	100～130g	120～160g	1.1～1.4合

技、其の七 春作業の目安

◎春作業の目安※下表を参考に作業計画を立てて下さい。

月日	4月 8～12	10～17	19～26	5月 7～13
育苗	←→ 催芽	←→ 播種	←→ 緑化期 マルチ除去 温度管理・水管理	←→ 硬化期
本田	←→ 土づくり資材散布・耕起・基肥散布			←→ 代かき 田植え

特別栽培米に取り組む方へ

早い地区で温湯消毒作業が始まりました。その後の作業・管理について**下記の注意事項を厳守して下さい。**（ばか苗病等の発生予防対策としても重要な事項です）

- ①温湯消毒をした種子と、スポルタック乳剤等による薬剤消毒をした種子とは、**完全に区別し、別々の容器で浸種して下さい。**（催芽も同様に対応をして下さい）
- ②温湯消毒後の種子は引き取り後、**直ちに浸種**するか、日陰で十分乾燥させてから浸種まで保管してください。
- ③育苗箱に明確な目印などをつけて、区別して播種作業を行って下さい。
- ④育苗期の殺菌剤等については、地域ごとに特定されておりますので、指定された農薬以外は使用しないよう注意して下さい。

ポジティブリスト制度を遵守！

すべての農薬において残留農薬基準値が設定され、基準値をオーバーすると「生産物の出荷停止・回収」の事後対応が必要になるばかりか、市場の信頼を失うこととなります。

地域の農業者同士の連絡を密にし、決められた農薬の使用方法を厳守しましょう。

◎ケラの予防対策として、**育苗置き床に使用できる登録農薬はありません。**

波板などの設置による侵入防止策、有孔ポリを敷くなどの対策を行なうようにして下さい。

★ 次号の発行は4月11日です！



つや姫コーナー

栽植密度 70株/坪の徹底を！

- 庄内地域は、種子量が4.2kg/10aとなっています。昨年にも増して、**育苗管理に注意しましょう！**
- 初期の生育・茎数確保が重要です。70株/坪、4～5本/株植えを徹底し、初期の分けつを促しましょう！
- 土壌pHの酸性化が確認されています。土壌改良資材を積極的に投入しましょう。